検査入院から考える大人の発達障害

＊当財団（講座）は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、（公財）日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会（ワークショップ）」の承認を受けております。<承認期間：2022 年 7 月 2 日～2027 年 7 月 1 日 承認番号：20210392>

期　　日： 2025 年 11 月 15 日（土）・16 日（日）

受講対象： 医療、心理、福祉、教育などの現場で相談支援に関わる方、および関連の専門家、またはこれらの専門家を目指す方

定　　員： 80 名（定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください。先着順となります。）

受 講 料： 15,000 円（税込み）

主　　催： 公益財団法人 明治安田こころの健康財団　TEL 03-3986-7021

会　　場： 公益財団法人神経研究所附属晴和病院 4 階晴和ホール ※詳細地図は受講証に添付いたします
東京都新宿区弁天町 91 番地
都営大江戸線「牛込柳町駅」より徒歩 5 分、東京メトロ東西線「早稲田駅」「神楽坂駅」より徒歩 10 分

大人の発達障害の認知度が高まり、自らの生きづらさを発達障害によるものではないかと考え、発達障害専門外来を受診する患者は多く、発達障害専門外来に予約希望が殺到する状態が何年も続いています。

しかしながら、発達障害専門外来を受診する中で、発達障害の診断を受けるものは半分にも満たないという現状があります。つまり、その他の疾患や困りごとによる「生きづらさ」が「発達障害類似」の症状や特性として表現され、精神科医療に繋がる一つの契機となっているといえるのでしょう。

今や発達障害は生きづらさの一つの解決の糸口としての意義をなしているものとも考えられます。そのため重要なのは、「発達障害」をキーワードに受診した患者に対して、細やかなアセスメントを行い、適切な支援につなげていくことであるといえます。発達障害専門の医療機関は発達障害であるか否かという点に留まることなく、トラウマや解離、愛着の問題などの併存する疾患や、環境調整を要する問題など多面的に患者を分析していくスキルと多職種連携によって支えていくシステムを構築していく必要性があります。

そこで今回の講座では、発達障害診療の中でも、2 週間・3 週間の入院期間中に様々な心理検査や聞き取り、行動観察を重ね、アセスメントを行う発達障害検査入院をテーマに、発達障害のアセスメントの本質に迫り、理解を深めていくことを目的としています。出席の皆さまもそれぞれの経験をもとに、討論に加わっていただければと思います。

【企画講師：川嶋 真紀子、加藤 進昌】

【プログラム】

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。

日程	時 間	テ ー マ	講 師（敬称略）
11月15日（土）	13:00～14:00	発達障害の基礎	公益財団法人神経研究所 理事長 東京大学 名誉教授　加藤 進昌
	14:15～15:15	多様な検査から一人一人の発達障害特性を捉える	公益財団法人神経研究所附属晴和病院 臨床心理士・公認心理師　松岡 今日子
	15:30～16:30	発達障害と似て非なるケースのテストバッテリーと支援を考える －検査入院事例を通して－	公益財団法人神経研究所附属晴和病院 臨床心理士・公認心理師　高橋 里衣奈
	16:30～17:00	質疑応答	
11月16日（日）	9:00～ 9:30	発達障害と似て非なるもの	（前掲）　加藤 進昌
	9:45～10:45	成人発達障害の典型例と非典型例について	公益財団法人神経研究所附属晴和病院 副院長　丹治 和世
	11:00～12:00	解離の治療	医療法人社団 明雄会 本庄児玉病院 新谷 宏伸
	12:00～13:00	昼 食（各自お取りください）	
	13:00～13:30	発達障害検査入院とは	公益財団法人神経研究所附属晴和病院 臨床心理士・公認心理師　川嶋 真紀子
	13:40～15:15	座談会：発達障害検査入院を通して当事者から	（前掲）　川嶋 真紀子、高橋 里衣奈、 松岡 今日子、検査入院当事者
	15:30～16:00	全体討論	司会：川嶋 真紀子 ／ 出席講師